

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、東京都中央区の三越日本橋本店で開催された「よみがえるにっぽんの鉄道展」です。

昭和 100 年記念「よみがえるにっぽんの鉄道展」

主催：NHK エンタープライズ

URL：https://www.mistore.jp/store/nihombashi/shops/other/other_shopnews/nipponnotetsudou_50.html

本展は、昭和の時代、日本の隅々まで鉄道網が形成され、人と人、町と町を結ぶかけがえのない存在として社会の発展と人々の暮らしを支えてきた鉄道の歩みと魅力を、「昭和 100 年」の節目に、写真や映像、関連資料を通じて多角的にたどる企画展として、令和 8 年 7 月 22 日（水）から 8 月 3 日（月）にかけて三越の日本橋本店で開催されました。

展示会場内では、日本を代表する鉄道写真家である広田尚敬氏の作品を中心に、北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、関西、中国・四国、九州・沖縄の全国各エリアごとに、力強く疾走する列車や味わい深い駅舎、そしてそれらを利用する人々の姿など、かつての鉄道風景が情緒的かつ圧倒的な迫力で展示されていました。さらに、NHK が保有する貴重なアーカイブ映像が大型スクリーンで上映されており、ガタンゴトンと響く車輪の音や汽笛とともに、当時の空気感をリアルに体感することができました。来館者の中には、スクリーン前の映像を熱心に見つめている方や、かつて当たり前だった懐かしい鉄道風景を前に、「本当に懐かしい。当時の活気がそのままよみがえるようだ」と、昭和の青春時代や日常を感慨深そうに思い出しながら語り合うご年配の方々の姿も数多く見られました。



◆NHK エンタープライズ よみがえるにっぽんの鉄道展



また、圧巻だったのは展示会場の外壁に掲出された、長さ 10 メートルを超える巨大な「日本全国の旧国鉄・JR 線廃線入り路線図」です。現存する路線のみならず、かつて全国を巡っていた鉄路の広がり、多くの人々が足を止めて見入っていました。



さらに本企画展では、上記のメイン展示以外にも鉄道文化を多角的に深掘りする 4 つの魅力的な関連コーナーが設置されていました。

一つ目は、「時刻表 100 年」と題し、大正 14 年（1925 年）の『汽車時間表』創刊以来、100 年以上にわたり旅人と鉄道ファンに愛され続けてきた JTB 時刻表の軌跡を紹介するコーナーです。戦時下の混乱期を経て、戦後復興や高度経済成長期の「夢の超特急」誕生、青函トンネルや瀬戸大橋の開通など、日本列島が一本のレールでつながっていく歴史を映し出す貴重な各年代の時刻表が展示されており、一部は実際に自由に手に取って閲覧することができました。

二つ目は、精巧な造形と高い再現性で知られる「鉄道模型」の技術や世界観を伝えるコーナーです。昭和 32 年（1957 年）に誕生し、昭和 40 年（1965 年）に国産初の N ゲージ完成品モデルを発売した KATO（株式会社 関水金属）の歩みが紹介されており、私自身も子供のころに憧れを抱いていたあのミニチュア鉄道の世界に、改めて胸が躍りました。

三つ目は、列車旅を彩る魅力として欠かせない存在の駅弁について、その歴史と文化を紹介する「駅弁ものがたり」コーナーです。鉄道博物館等とも連携し、各地の工夫を凝らした駅弁のレプリカや資料など、見ていて思わずお腹がすいてくるような魅力あふれる展示がなされていました。

◆NHK エンタープライズ よみがえるにっぽんの鉄道展

四つ目は、昭和2年（1927年）に日本初の地下鉄として誕生して以来、首都東京の生活を地下から支え続ける東京メトロの歩みや魅力を紹介するコーナーです。三越前駅の誕生と地下街文化の歴史などもひもとかれており、都市の発展と鉄道の深い結びつきを実感できました。



また、三越内の別会場においては、本展の開催に合わせて、「鉄道模型 KATO ジオラマ特別展 & 鉄道のまち紹介」及び「ここで味わうにっぽんの駅弁フェス」という二つの魅力的な関連イベントが同時開催され、こちらも会場全体が大きな賑わいに包まれていました。

特に、ジオラマ特別展では、精巧に作り込まれた情景ジオラマの数々が展示されている中、全国の高校生たちが制作したコンテスト作品がひととき目に留まりました。情景の緻密なディテールや溢れる感性など、どれも非常にレベルが高く、その熱量と完成度に感動しました。

◆NHK エンタープライズ よみがえるにっぽんの鉄道展



今回の視察も、また新たな感動と発見に満ちた訪問となりました。

多くの方が「昭和」という時代を聞いて思い浮かべる代表的な情景の一つに、煙を上げて走る蒸気機関車や、超特急、超満員の通勤電車といった鉄道の姿があるのではないのでしょうか。そのくらい鉄道という存在は、近代日本の産業や都市の発展のみならず、人々の生活や旅の文化、思い出の中に深く根下ろしてきたものだと思います。今回の企画展を通じて、昭和という時代が持っていた圧倒的な躍動感を肌で感じるとともに、人と人、町と町をつなぎ続けてきた鉄道の普遍的な魅力と歴史的意義を、改めて強く再認識しました。

会期：令和8年7月22日（水）から8月3日（月）

主催：NHK エンタープライズ

住所：東京都中央区日本橋室町 1-4-1（開催場所）